

大吉山
綴一
路一の
三子

歌川國松画

岡本貴泉

芳川春濤

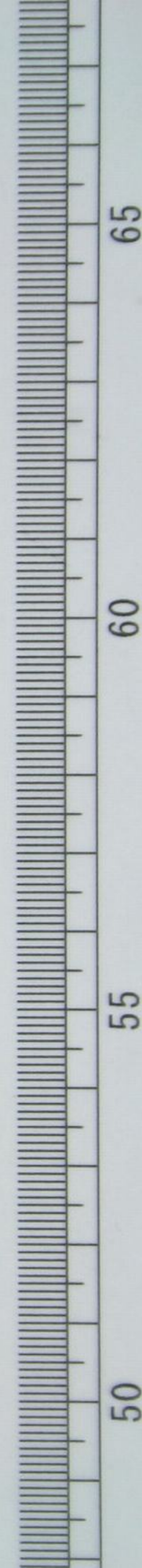
花岡奇縁譚
三編
大尾

寫鮮堂網島版

下之巻

中之巻

上之巻



50

55

60

65

A541
7

東京に開き
横濱に薫る

花岡奇縁譚

三編上之巻

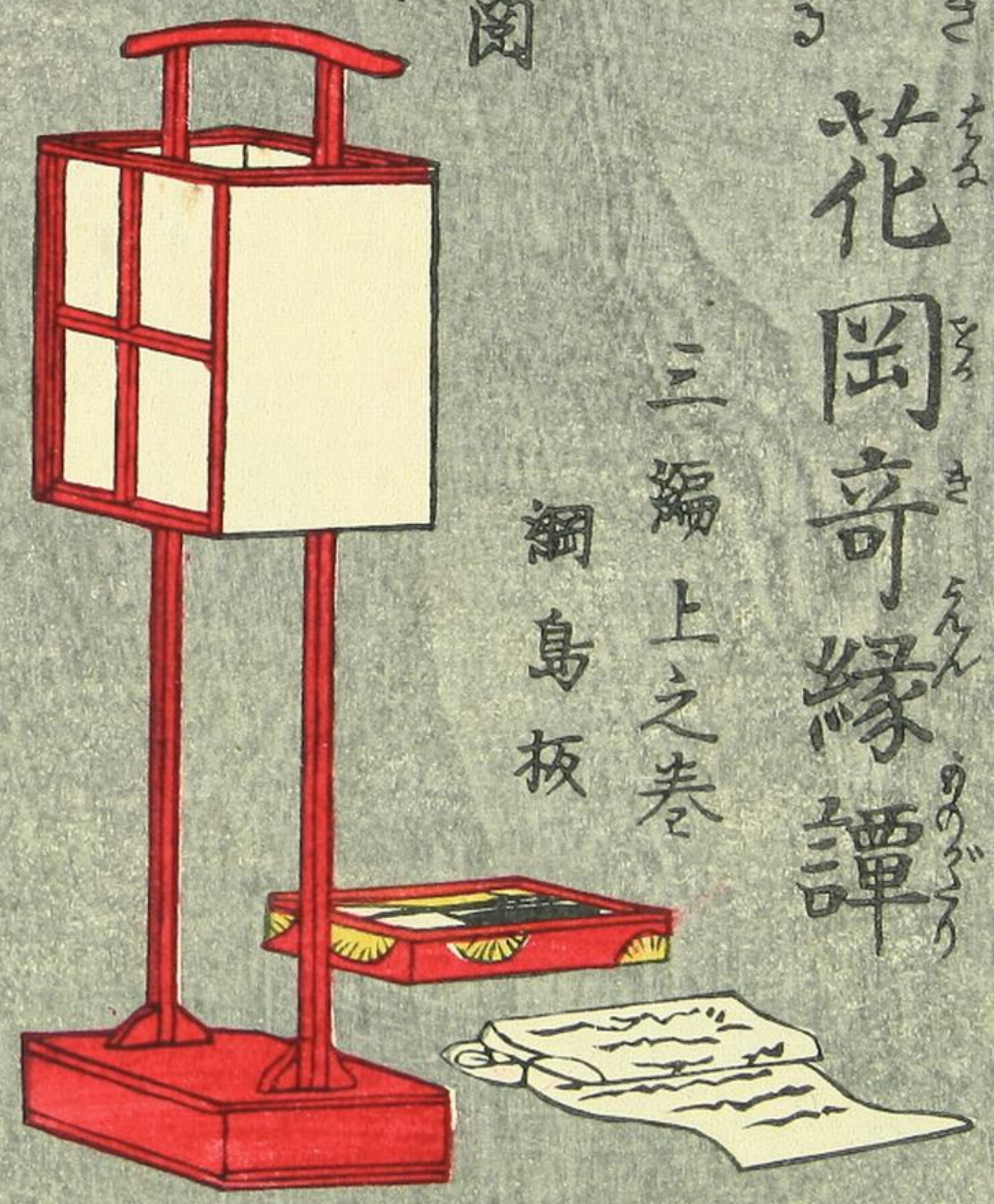
綱島板

芳川春濤

岡本貴泉

歌川

國松画



善積がれの家と興も足らぬ悪積がれの家と亡はれた
 至らぬと互あるもの故善人一家と興をなすもの艱難と悪人
 一身と亡ぶるもの兇暴と相照せば其軽重如何とや
 看官此編の新助三之助が常等が流離の辛苦と廣吉
 金五郎が兼等が出沒の奸曲と併せ鑑を以て天道賞
 罰の明晰たるは覺りたもの作者が微意の存る所と
 賞賛ありて無用の小冊子と見做し五を以て尚不愛顧と
 垂息とすこと伏て希ふ

明治十五年四月

芳川春濤題



七三上

48-8410





川越屋後家の
於 関



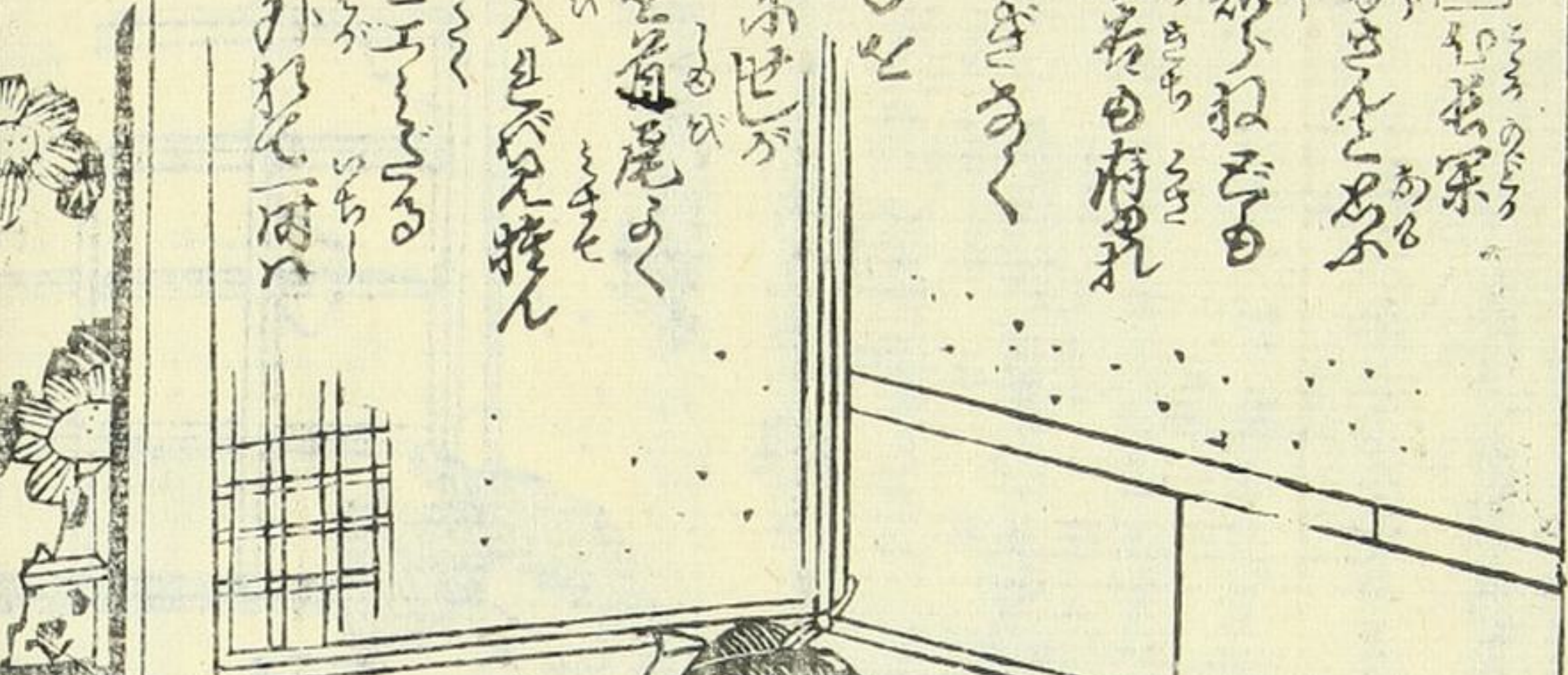
○徳和ふれば必
購ありとの若ゆのりなく
悪ゆのりなしと要ともの
金を
春
持来り
衣取と

決八
速電
金子に合
せ百四
日て取
賣代
大尊以
取り極
ありは
一七

つぎ 小暮さるとあふ
あはれおぼやけ
あはれおぼやけ
あはれおぼやけ

あつひと
あつひと
あつひと
あつひと
あつひと

あつひと



あつひと
あつひと
あつひと
あつひと
あつひと



あつひと
あつひと
あつひと
あつひと
あつひと

あつひと
あつひと
あつひと
あつひと
あつひと



あつひと
あつひと
あつひと
あつひと
あつひと

あつひと
あつひと
あつひと
あつひと
あつひと



つぎ

おうけさげを
小まごへ渡す

の例(より)

日(を)読(み)者(を)

旧(いに)の内(うち)

外(そと)へ出(で)る

且(また)私(わが)

の仕(し)合(あ)

せ今(いま)日(ひ)の緩(ゆる)方(かた)

あおと流(なが)れ

某(たが)あす(あす)と私(わが)

ハツクサメ惚(おぼ)れを

あねは色(いろ)上(うへ)の

まのいとお兼(かね)

むらうの空(そら)

或(ある)料(りょう)程(ほど)の

四

△

髪(かみ)取(と)り

由(よし)敷(し)のれあを合(あ)は

身(み)が又(また)

あゆま

せむに

あひあ

あはれ

あまふ

あまふ

あまふ



そと

おのね

後(あと)者(もの)

お首(くび)筋(すぢ)

そとさぞと

そとけあくと

お由(ゆ)持(もち)制(せい)

あま

うとあ

尻(しり)人(ひと)の

痛(いた)さ

ゆ我(わが)慢(まん)を

おのね

おのね

おのね

おのね

おのね

おのね

おのね

おのね

五

夜更
と夜更
持て退んと
味もあまる
飯方へ



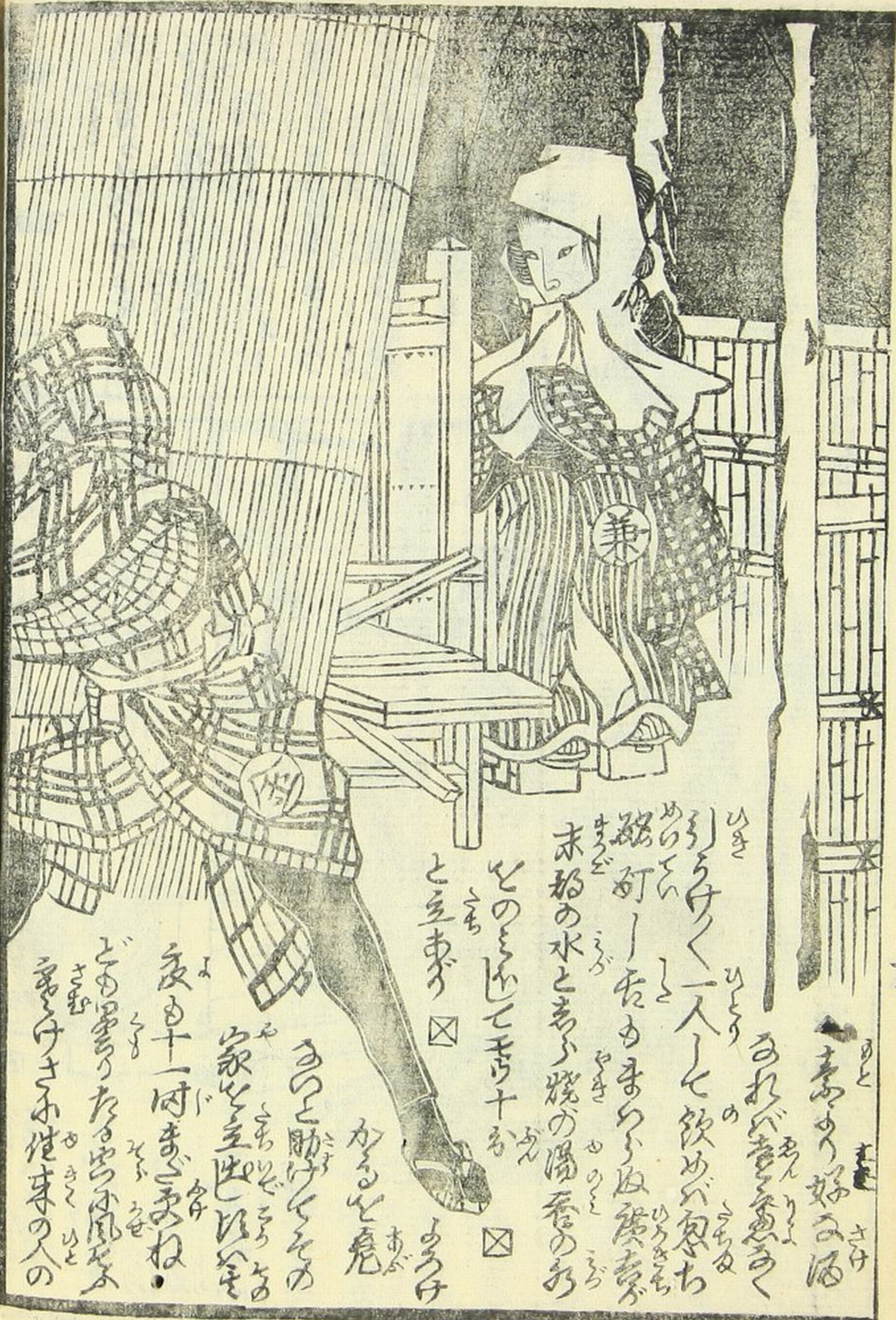
人用おんてさく
小松とかりすと
娘ととます
のまらね令
五小松が
おまると
おまると
おまると
おまると
おまると

おまると
おまると
おまると
おまると
おまると
おまると
おまると
おまると
おまると
おまると

男がひつらさる
と夜更
持て退んと
味もあまる
飯方へ



小松があらうていはい
おまると
おまると
おまると
おまると
おまると
おまると
おまると
おまると
おまると



兼
 引さく一人と飲めば
 碓氷一帯のまらぬ
 未始の水とあふ
 心のとて
 と豆束り
 かのを危
 家のまは
 友由十一時
 とも
 意子

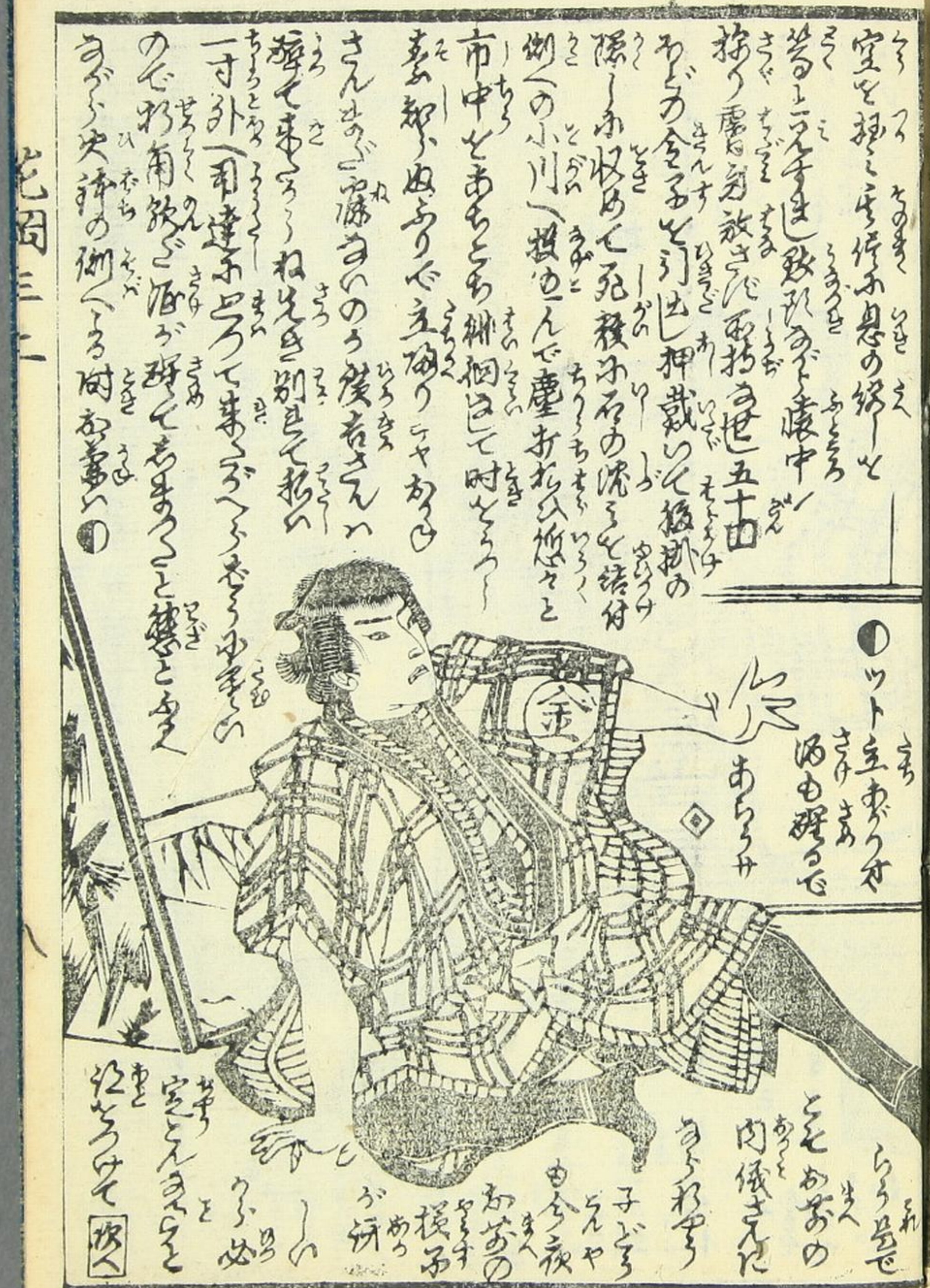


仕方の
 あるまのとな
 胸をさめ月
 のまんといふ五
 後者も清い
 或牛肉店
 後を
 せられた
 掃き
 五
 意と
 自と
 心と



何ぞとあるん後者い
 かつとあるひつるをうりあて虚

◆ 合はんまの款ごん地をーろと
 ありあお能き小刀と送る子持ん
 実か否に
 キヨフと
 実か否に
 金五兩か
 実か否に
 子持金
 金五兩か
 実か否に



空を掃くは作れ息の終り也
 若上をすは致れあて懐中
 片の腰を放さば取る世五十由
 あか子と引はし押裁りて極刑の
 際しお収めて死積りるの流を結付
 柳の小川に散らんと塵おれと煙を
 市中とあらと柳柳はて時と
 妻知らぬありて主のりやあは
 さんあがの海道のう後者さん
 海てあまうねを別是て移
 一寸外(用達)おろて来ると
 の心南張り酒が研ぐあまこと
 まぐり火神の柳へる樹あま

○ ット五あうが
 海も研る也
 あらうや
 らう是也
 子持金
 内儀した
 ろう是也
 子持金
 内儀した
 ろう是也

010190514299

芳川春傳關本起泉綴

川上行義復警奇談 二編	幻阿竹尊聞書 三編	澤村田之助曙草紙 五編	坂東彦三倭一流 三編	白菅阿繁顛末 三編	嶋田一郎梅雨日記 五編	東京奇聞と色吉原浮世系物語 三冊
出版人 編島章吉	編輯人 岡本勘造	新板物不致誤	界平 府藤栗色 三編	御所櫻梅松録 一書	東京上関花岡奇縁譚 三編	



神田三上

九

つぎはらふぬあひの糸
 又小妻と那奴の河へ
 遊の昔
 金六

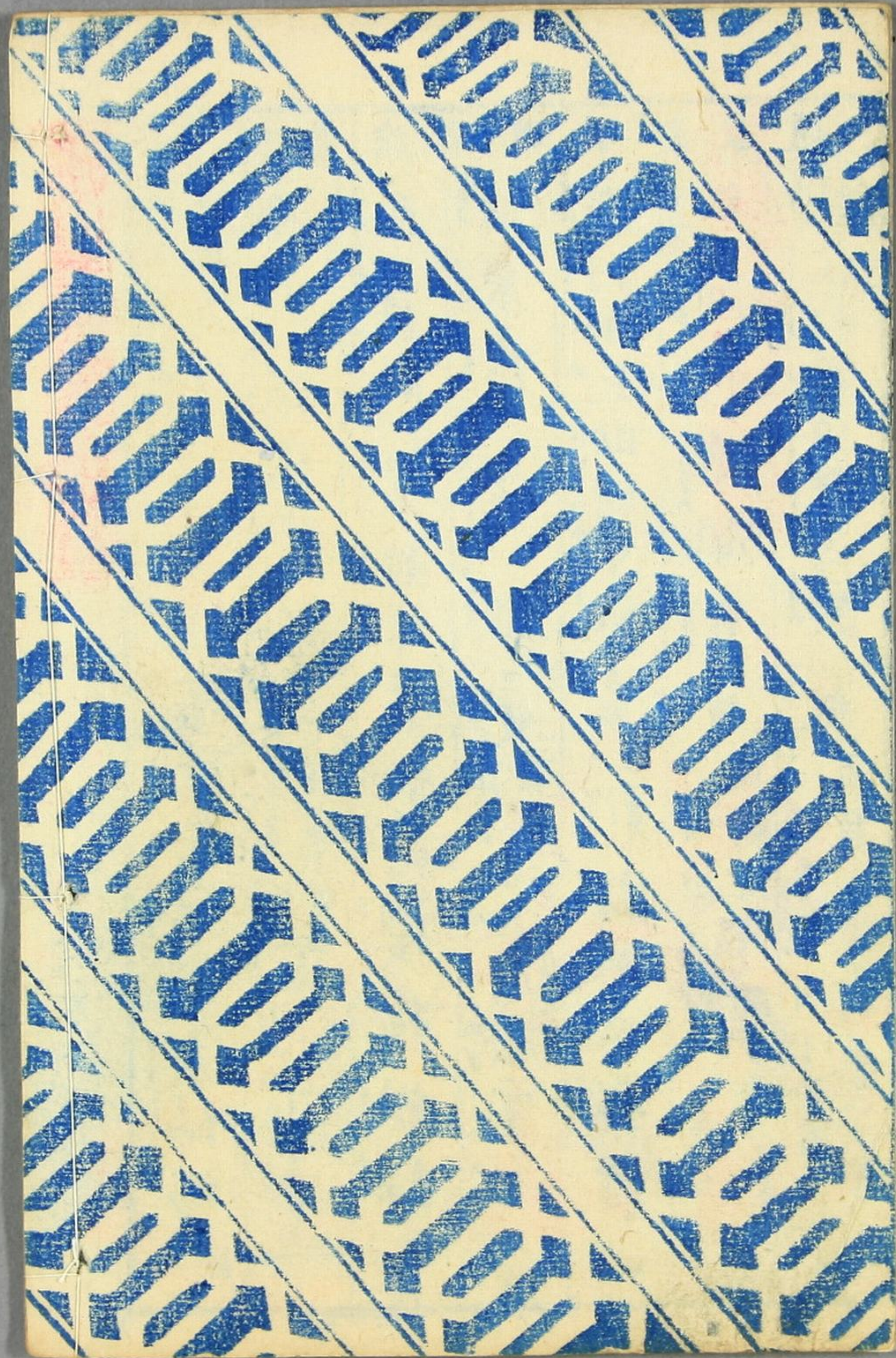
金六

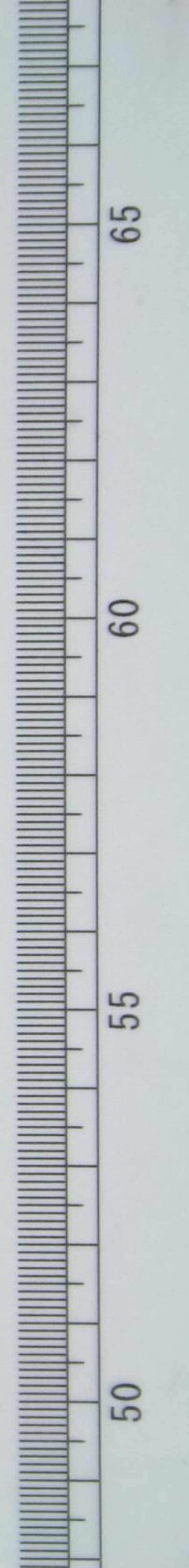
不使まらぬ
 押方付て

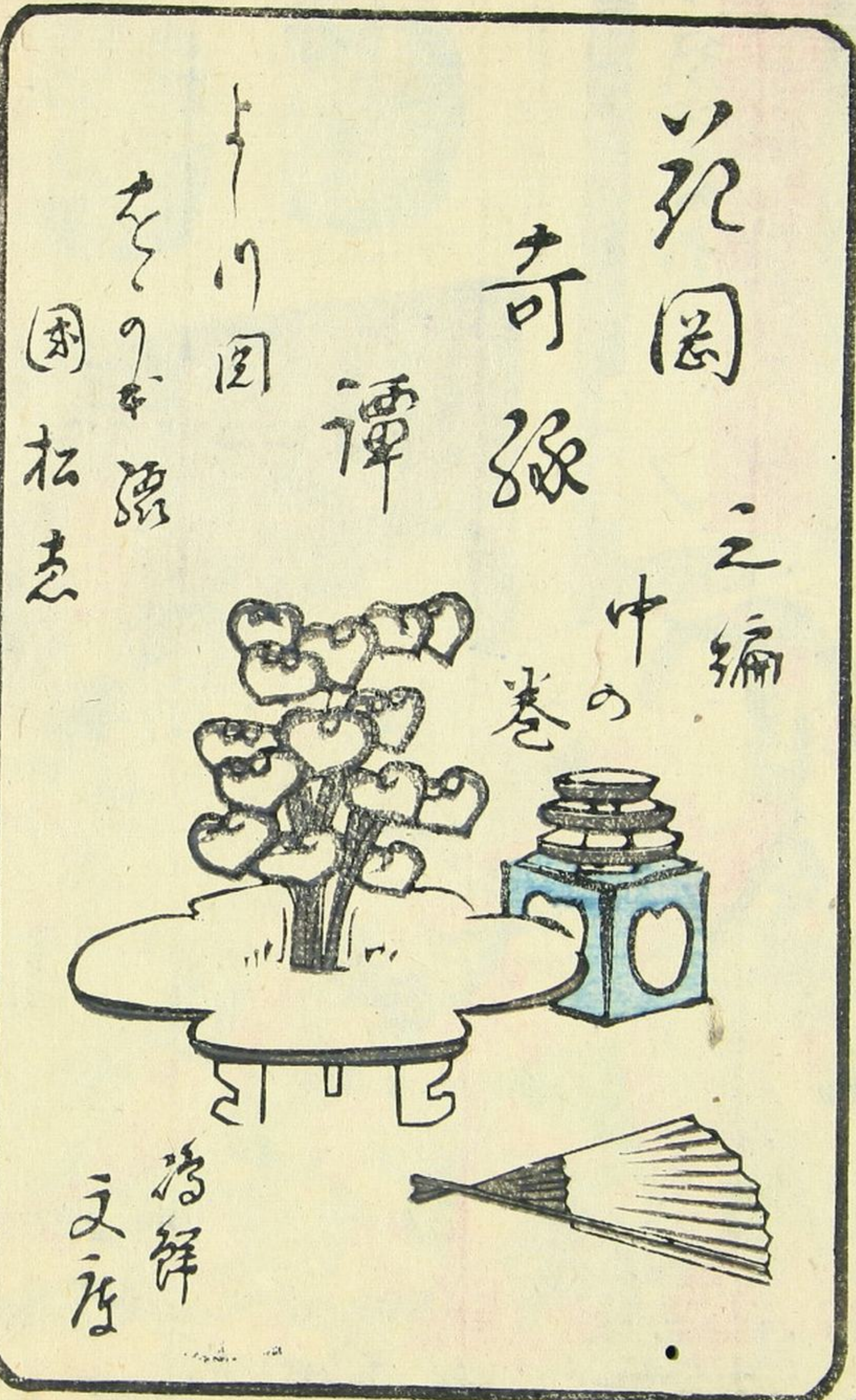
おまひに中
 一不みそさ
 とまのて後活

おまひに中
 一不みそさ
 とまのて後活

おまひに中
 一不みそさ
 とまのて後活







花園三

決てはまのしらり
 と引知はき
 逃れゆくお兼と
 せのまて悪ゆを
 人小見悲おめり道し人
 うい今夜の内も油断が
 何雨とせまの定めねど
 まづお兼お上の中へ二人

小兼お好ま
 必命せしとせむひ夜は双方小たぬ由
 かけおけい上川城の暖簾と再母
 片るお一ありま答のう小兼ひるひ

海へ乗りし
 氏へ引取方と教と
 身世英お人へ入り
 貴おのんおめを私に
 年の外お南へ
 年々お南
 出来お放り
 雲のふり

登るおは道と精
 登るおは道と精



文とをま出さうり
 〇叔母お兼お女へけり
 如常の如し
 故の云とぬ
 〇叔母お兼お女へけり
 〇叔母お兼お女へけり
 〇叔母お兼お女へけり

〇叔母お兼お女へけり
 〇叔母お兼お女へけり
 〇叔母お兼お女へけり
 〇叔母お兼お女へけり

〇叔母お兼お女へけり
 〇叔母お兼お女へけり
 〇叔母お兼お女へけり
 〇叔母お兼お女へけり

〇叔母お兼お女へけり
 〇叔母お兼お女へけり
 〇叔母お兼お女へけり
 〇叔母お兼お女へけり





再會せしが

影助が在りて
 途申は先以井お坊
 後方の停車場へ赴く
 途申は先以井お坊

引込
 影助の
 何やら此の心算
 ありけれど

● 夢のよまき
 と曉らねば

途方小書れた停車場
 のは台に横打る切符
 買ふ板と名乗る基中
 織袴小書情子尚と
 友真作の人が九兄
 友真作の人が九兄

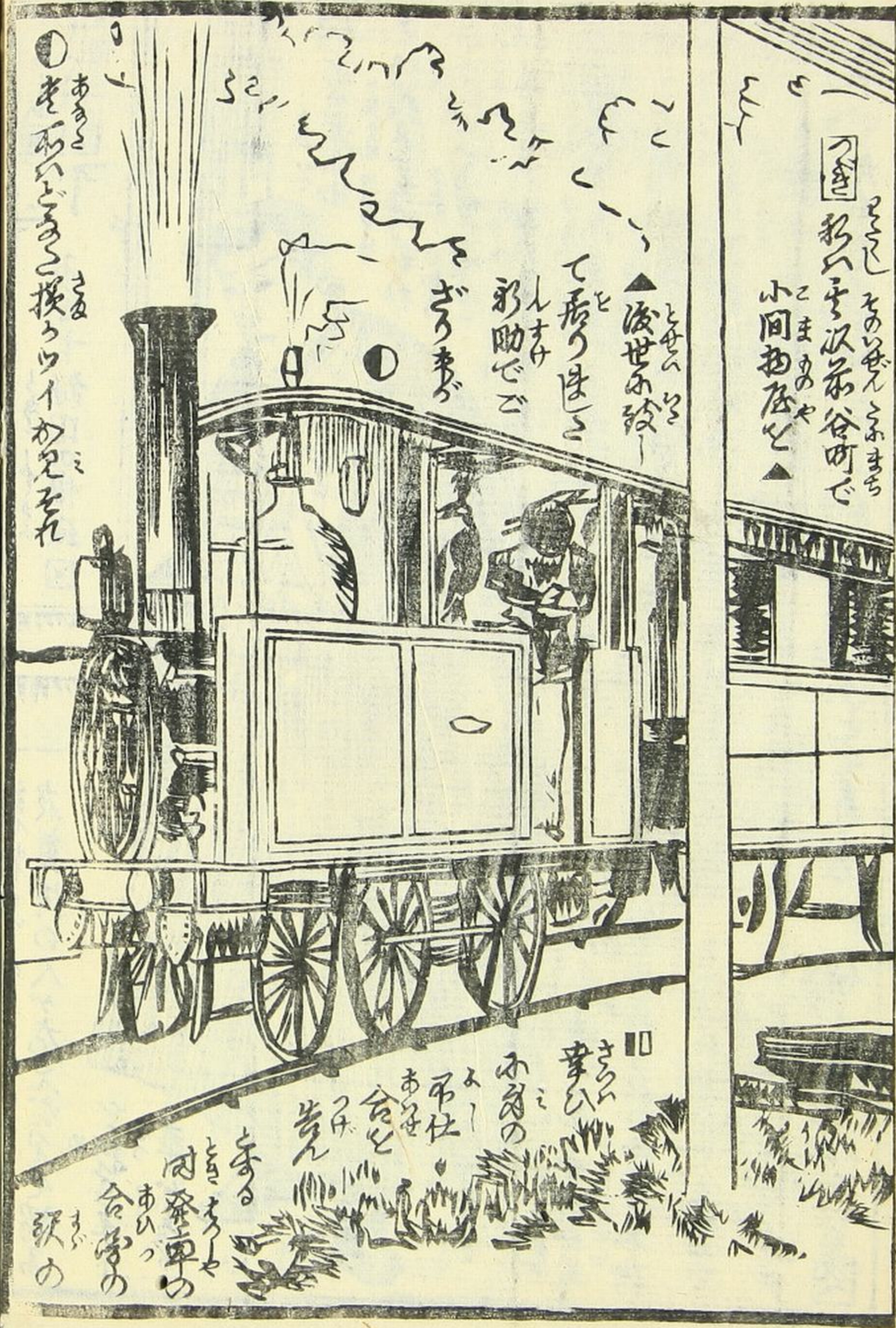
あて十部四の借成



ある者お出
 あひ被是云存され
 引込んと
 南成心世が元より
 せしああねい何ふ
 持合せる八田粒の
 涙しが裏中あひ
 三十甲たらむの

町小形
 どの心算
 て影助
 研り

新編 新編 新編 新編
小間おなご

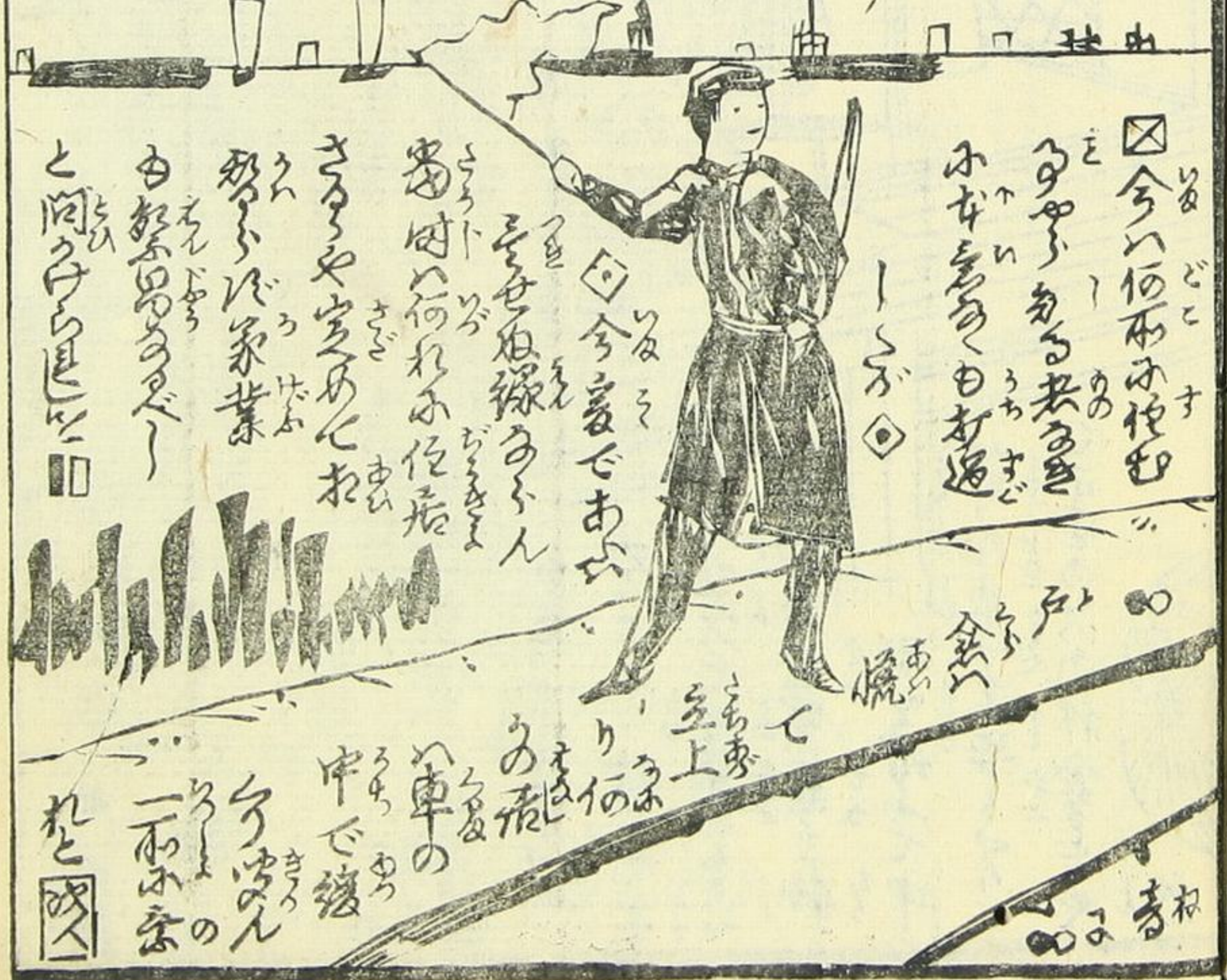


● 老あいごまご 換りワイお見それ

▲ 後世の故
て長りほご
新助でぞ
さうまが

幸い
小舟の
平仕
合と
合学の
歌の

中しきとオ、そらとある僕いの一羽の
隠し件の家お下宿してのうお世話
小敵と可く戸会換でござうま
それくお父いご保しそ後にお参り
由あるは結構お座平が御用い何れ
お位着るまるとお持ね返すの妙奴が
今の雅儀を病へて救助を乞ふ心あれ
と危病ありのびたあらふと知る御座
い例へお腰を打ちひて函後出張後
運の腰抜おせは海系とあるるも
ある玉へ戻りが一階車出系して
或者一筋めるとに成放お年の礼
も為人とせ件の宅を病はに



◇ 今更であら
そのお縁ある人
お母い何れお位着
さうとや定めてお
おれは家業
おおるる
と問ふの道に



つぎまじ

と
あふねも新ぬへ面目まびたす

しねとらん

色

ああ

らふと

源車に合巻て

小中寄

とてま

しとま

人小出

ゆふ会

とてま

がら

助

十

助



○正連のぬれ林舎とて

等流車(茶地)とて

助とて中

ら切符とて

とて中

のヨシク

切符が遠ふといふ

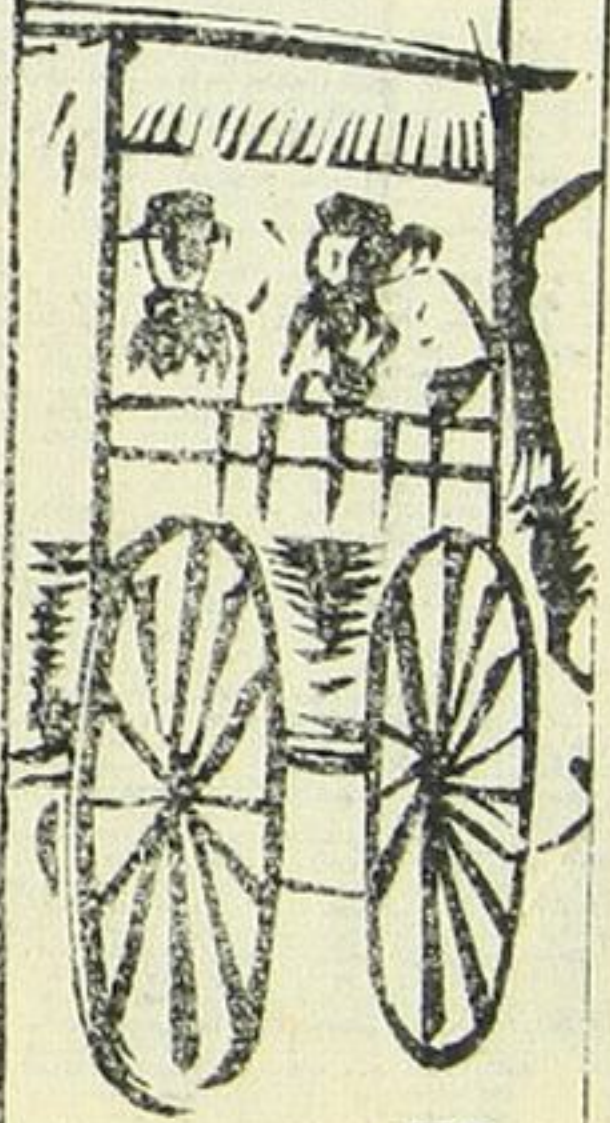
とて中

とて中

とて中

とて中

ついでとて助方透
りてまゝ外國銘
賣込ませ被合あり



何れも
△何れも
△何れも
△何れも
△何れも

利通と臨し不務助の面目を
祿しうらみ踊りといひ彼お兼の
か控の名あは山やう備愛
八十田の令と送却せんと兼
同家へ形け直るる長救徳乃
具と田舎中と柳け直るるれば
赤糸(持前)て怒る百六十田路小
妻打いへ急うの
借込千圓を安取小



使のう場あまけ
△何れも
△何れも
△何れも
△何れも

返渡して飯村のうへ
八十田小おおの利息と
返して山北へ返行する
と返あわのやを實直と
賞して先中令と交
納め証書と返して改めと
八十田小慰斗とつけく
新助の前は直して是ハ
させり
ひのめあがらお世後と
ひのめあがらお世後と
ひのめあがらお世後と
ひのめあがらお世後と
新助小利息と返して



△何れも
△何れも
△何れも
△何れも

おれまうといふと新助の押返して△



▲如何とあるが
お種とお後の之
久を承継しく者
日七権ひ目出交
替個と取替へ
後右の夫婦の
てまふと産を産
内の別宅へ
隠居しく
周平の家督を承りて
村助と美良婦の後見と
て家事と世世お種とと母
引取りて産業の指図とせむ

つぎの村助のついでに
外小村持をねの尻より困りも
世の八州の首をたおしけやま
と云ふは心を不感とせむ
此後高法中にも聞く所の
吹貝舟小舟のついでに
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき

▲我家の客を
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき

ついでに
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき
おとせし後せしをせき

010190514302

芳川春鷹閣本泉蔵

川上行義復讐奇談 二編 出版人 編島龜吉	幻阿竹噺聞書 三編 編輯人 岡本勘造	澤村田之助曙草紙 五編 新板物不板紙	坂東彦三倭一流 三編 新板府藤栗色 三編	白菅阿繫顛末 三編 御所櫻梅松録 三編	嶋田一郎梅雨日記 五編 東京上関花岡奇縁譚 三編	東京奇聞 七編 色吉原奥系物語 三編
-------------------------	-----------------------	-----------------------	-------------------------	------------------------	-----------------------------	-----------------------

世への明治十四年の二月末
今宵の夜小一泊しての始末
言は通入のる車中にて
各々仍んぬるの月夜
妙旅不板紙通うと云ふ
くと来たるは方の
横所く
まうと
る一人の
男下の姿

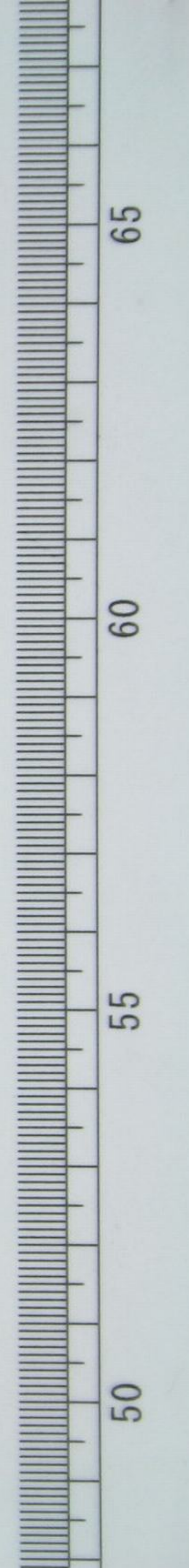
△吸茶原
と指ひしおあなるともく
新助う段候小感しるふ心へ
れお述べとあひ立
まよ小旅はまひと
教更て

仕る世
才取と
力取
小孫
ゆき子
由る子
上小山小を打撃のふと
おまのふ
おまのふ
おまのふ

△流車小おきり出系
△再小代と仕あ
再小川越名の

社三





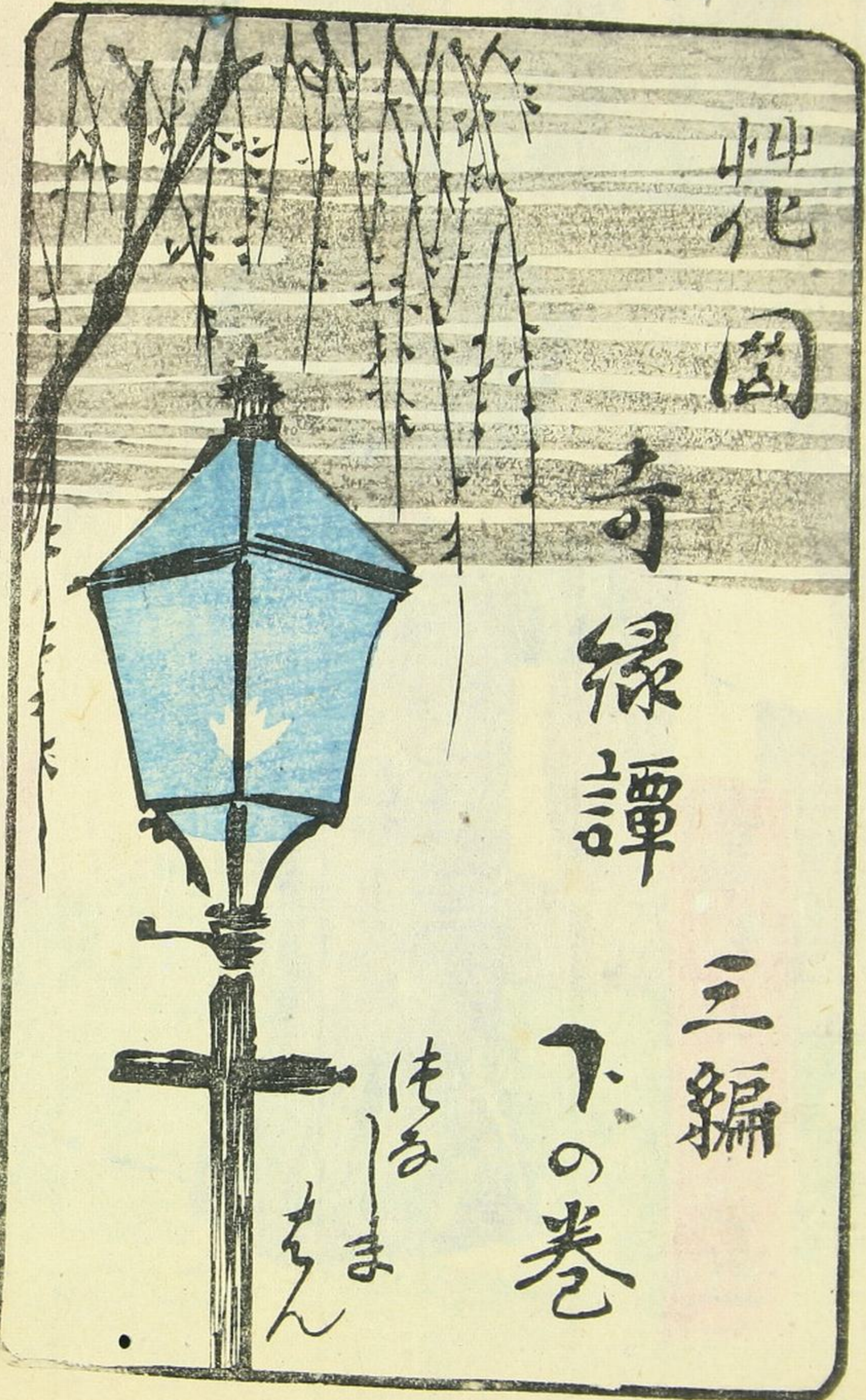
A54/119

仲化園

奇縁譚

三編

下の巻



ほろ
ま
もん

色圖三下



つぎより遠くは夜を助がむかひに華函と
奪びて百敷の逃れをうへ下りてを声浪り揚そく
とほつりた跡をたてて追うる路を不従来ゆきあり
那方へ行くは方と声どかたの曲おもは斯の光
りゆきをまひ照る方やゆ宿の魚
体の人
小実
あり

次へ

さるのまのちをたぬの
さるのまのちをたぬの
さるのまのちをたぬの
さるのまのちをたぬの



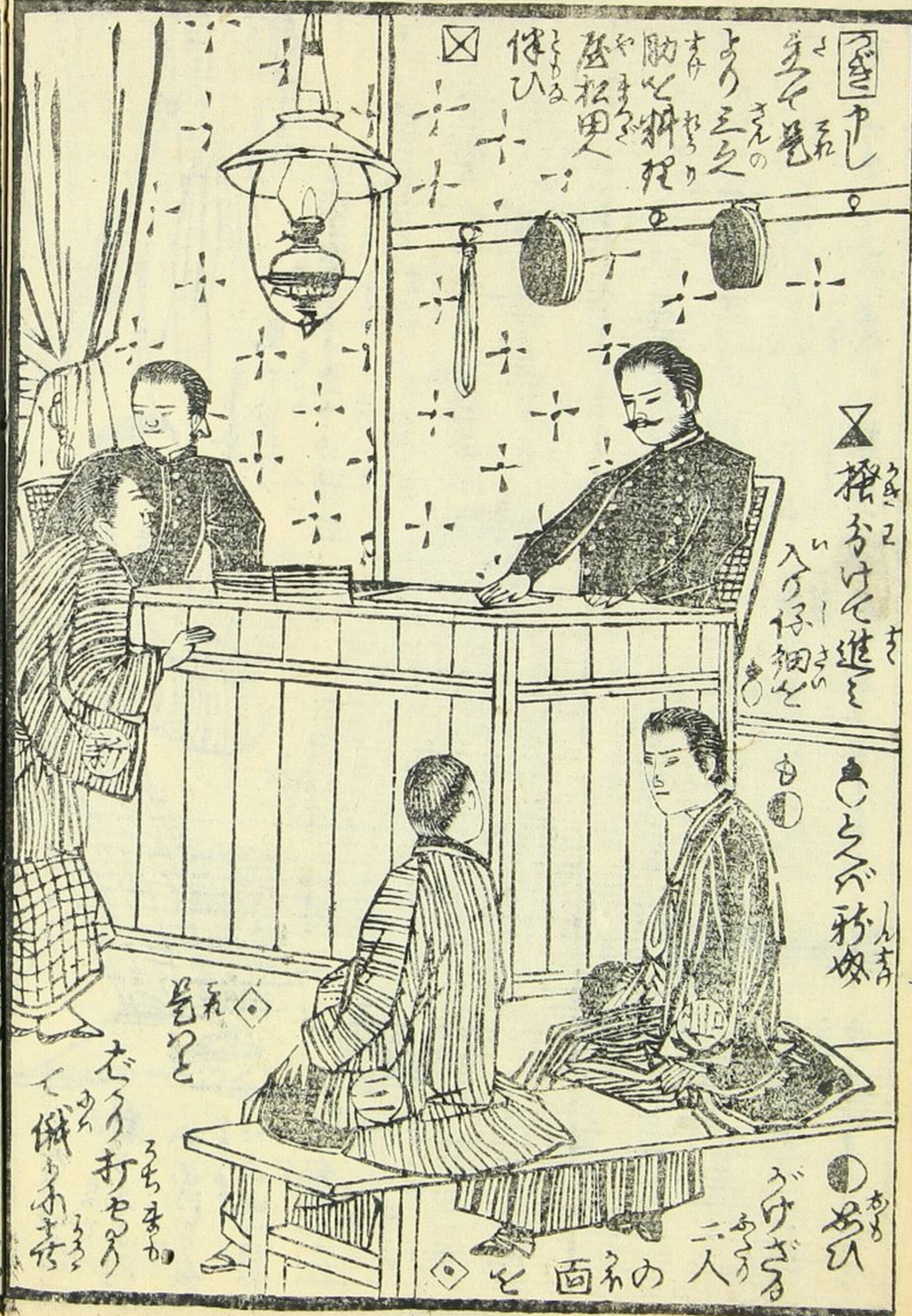
○まをら
世曲者
小徳め
あはれ
かまゆり
と遠く
がや
相の
け奴
助
伴
逃



とや
枝が
小東
以上
合
署へ
お
月
ま
判

上巳同三下

一 獄中
 二 獄中
 三 獄中
 四 獄中
 五 獄中
 六 獄中
 七 獄中
 八 獄中
 九 獄中
 十 獄中



一 獄中
 二 獄中
 三 獄中
 四 獄中
 五 獄中
 六 獄中
 七 獄中
 八 獄中
 九 獄中
 十 獄中

一 獄中
 二 獄中
 三 獄中
 四 獄中
 五 獄中
 六 獄中
 七 獄中
 八 獄中
 九 獄中
 十 獄中

一 獄中
 二 獄中
 三 獄中
 四 獄中
 五 獄中
 六 獄中
 七 獄中
 八 獄中
 九 獄中
 十 獄中



一 獄中
 二 獄中
 三 獄中
 四 獄中
 五 獄中
 六 獄中
 七 獄中
 八 獄中
 九 獄中
 十 獄中



一 獄中
 二 獄中
 三 獄中
 四 獄中
 五 獄中
 六 獄中
 七 獄中
 八 獄中
 九 獄中
 十 獄中

買物くく散歩小知付一松田の
 横所あて且那ふのふありませ
 如何の手と袂を引へ回すと
 あれど地獄の引手と振出し
 と及面をるふと色をん好婦の
 お兼ありしと名をひくの死を
 数へ至しに何れゆをを春ま
 驚るくふと盤倉へ送る
 こめとを索を打て
 引ゆく飯前の令五帝
 せりんとお兼がオヤ
 金さんかま由△



△まをん
 散歩小知付
 松田の
 横所あて
 且那ふの
 ふありませ
 如何の手
 と袂を引
 へ回すと
 あれど地
 獄の引手
 と振出し
 と及面を
 るふと色
 をん好婦
 の
 お兼あり
 しと名を
 ひくの死
 を
 数へ至し
 に何れゆ
 をを春ま
 驚るくふ
 と盤倉へ
 送る
 こめとを
 索を打て
 引ゆく飯
 前の令五
 帝
 せりんと
 お兼がオ
 ヤ
 金さんか
 ま由△



△お花も
 来ておる
 二二五

うけられ令
 又お花も
 来ておる
 二二五

面白の節一白次へ
 あの花も
 来ておる
 二二五

あり何由
 かのき
 ねいに
 白ゆ
 てつあ
 あり何由
 かのき
 ねいに
 白ゆ
 てつあ



出来やうと問ひまゐる上の上の
 廉と捕へて生布へ引掛くを帯と
 別で仔細と乳すと差控のま
 二人とも犯せぬと申しも色
 まふ白状せし小置の信人が
 申しまじと云に遠るぬ
 容易さうさう大犯人
 白ねばを捕へ

▲救世と存び信人と信以抄助が
 旅中向小赴きまふ小飾りなる周年
 お辰とも故人に引合を互ひに
 舟の上の秘合をまこと信りあり
 石お儀の途中で面合し
 て奸物の二人を捕へし
 お儀とも

お辰の遠るを
 信以の
 抄助の
 旅中の
 周年の
 面合の
 奸物の
 捕への
 石お儀の
 途中の
 秘合の
 舟の上の
 信りの
 まことの
 信りの
 互ひに
 故人の
 辰おの
 旅中の
 赴きの
 小の
 向の
 旅中の
 救世の
 存びの
 信人の
 信以の
 抄助の



此所より以下三丁の通り
 信人と三之助が物語
 と写せしめあり

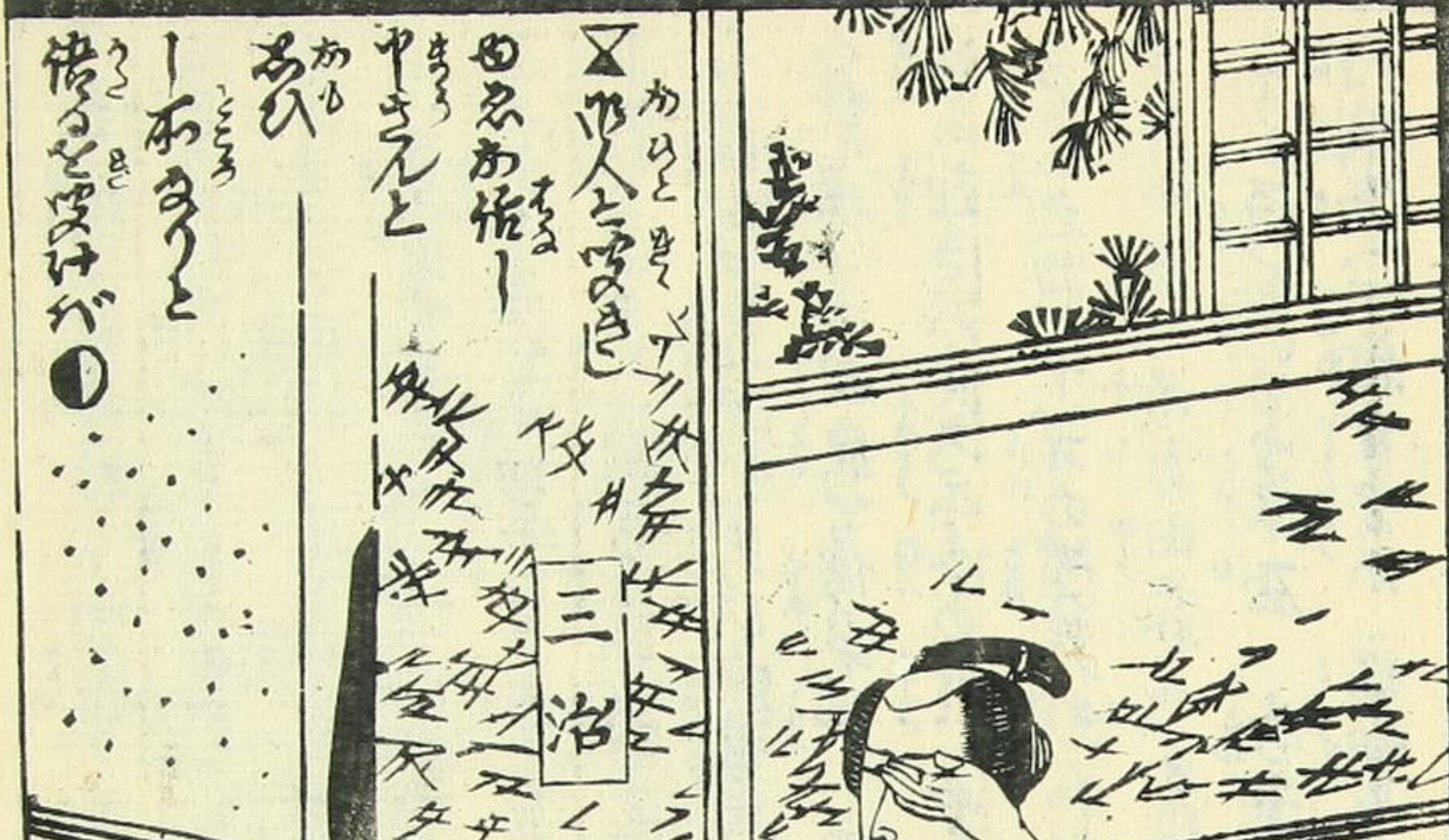
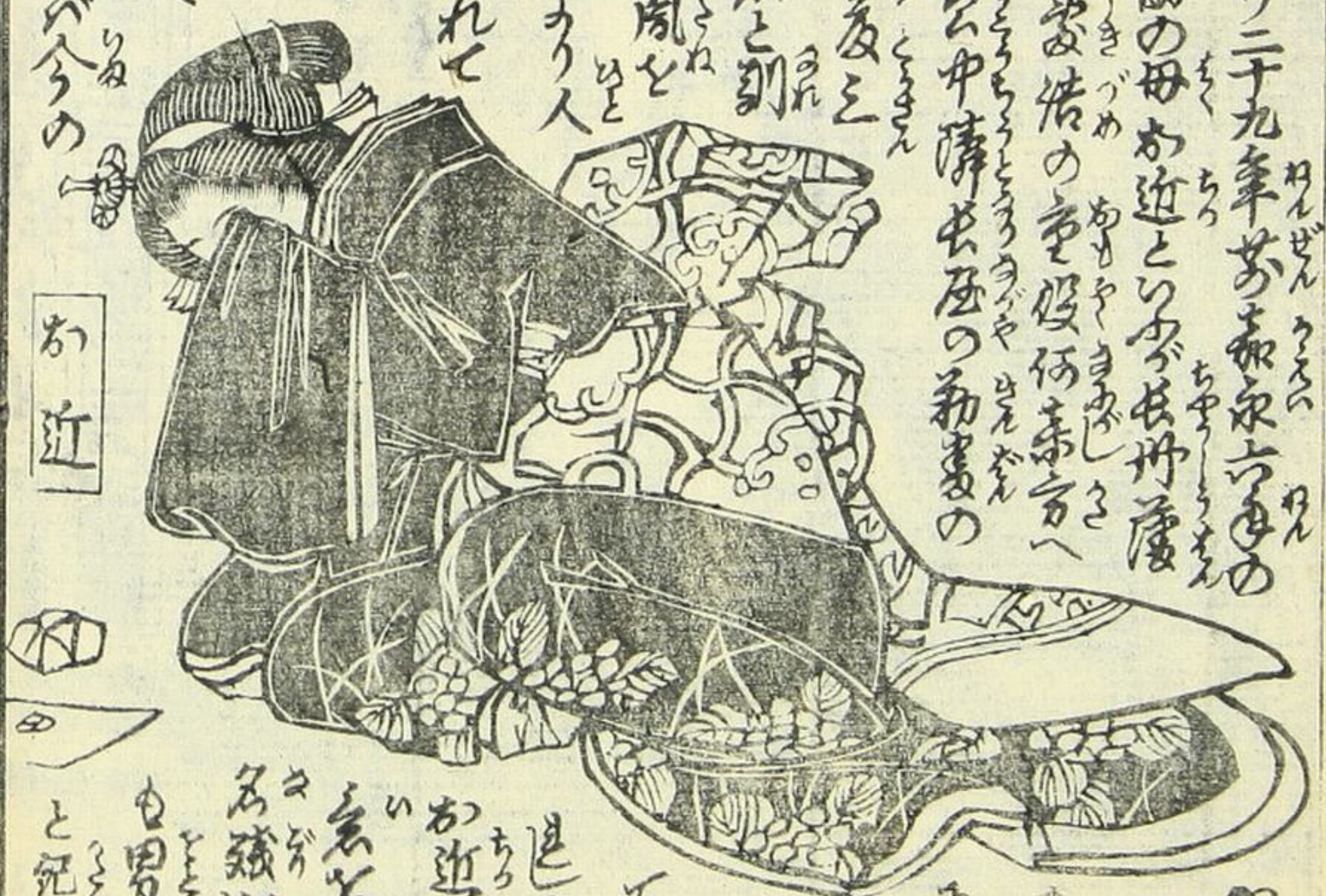
○同縁へ
 引掛くを帯と
 とを看せり
 誓固し
 て推合送
 られしを抄助と
 さんのおま
 三之助の
 季末の遠るを

お辰の
 遠るを
 信以の
 抄助の
 旅中の
 周年の
 面合の
 奸物の
 捕への
 石お儀の
 途中の
 秘合の
 舟の上の
 信りの
 まことの
 信りの
 互ひに
 故人の
 辰おの
 旅中の
 赴きの
 小の
 向の
 旅中の
 救世の
 存びの
 信人の
 信以の
 抄助の

つぎ 戸倉と上陸の陸軍と
 そのおもむきを他人も承知の
 面会を以て何れもその
 新編と従つて之を助め
 お向ひの御前電署にて
 御見世の御座り目録の
 御座りの御座り目録の
 御座りの御座り目録の
 御座りの御座り目録の

○今より二十九年前
 此之助の母お近といふ長門屋
 の江戸屋敷の御座り目録の
 御座りの御座り目録の
 御座りの御座り目録の
 御座りの御座り目録の

お近
 此之助の御座り目録の
 御座りの御座り目録の
 御座りの御座り目録の
 御座りの御座り目録の



因ふ處の小物と嘆
 此之助の御座り目録の
 御座りの御座り目録の
 御座りの御座り目録の
 御座りの御座り目録の

此之助の御座り目録の
 御座りの御座り目録の
 御座りの御座り目録の
 御座りの御座り目録の

つぎ 挨拶と尋ねし小僧より形づるゝ 全お世に善き親子の後
 自れより口と次の子義が親親の身入りり
 既しも又申すもあらんと征脚の糸と
 吾小と之の母と大切あり育つゝ
 不孝はして親親と違ひ途方々 の面をおわり
 暖み赴きし父久と母の終 やお近の味
 又て之助が十才の時され じ悪
 川紙五丁推せ公小 係細あり先一通り
 進めて伝人の三之女
 後或ハ親の死或ハ唄ハ捧ぐ
 りて長門征脚
 の皮甲が
 小加り
 後の親
 の後遺地
 を授け



入世縁と以てお近由 ねとまう伝入の
 同家之屋られ一お語り 此を安
 初め交交夜元奉の妻お 初め交交夜元奉の妻お
 くの病妻多お世に居候の くの病妻多お世に居候の
 母身と抱港の七 母身と抱港の七
 け子と征脚の け子と征脚の
 父父と尋ね 父父と尋ね
 うと居しと目費 うと居しと目費
 され又切お仕舞お世に居候の され又切お仕舞お世に居候の
 若と交交夜元奉の妻お 若と交交夜元奉の妻お
 同へと見しと知く養ある人の妻お 同へと見しと知く養ある人の妻お
 後り妻りし世の中お威の軍に 後り妻りし世の中お威の軍に



村母方の 姓を雨り せり
 てまらる ぬる
 高を伝 ぬる
 人と改め ぬる
 幕府 ぬる
 の速 ぬる
 捕と ぬる
 逃れ ぬる
 んため ぬる
 めと ぬる
 め ぬる

五月まを元
五月まを元
五月まを元
五月まを元



上世の初め
お通と母娘
左家おねの
おねあての
おねあての

お通と母娘
お通と母娘
お通と母娘
お通と母娘

不月ありて
不月ありて
不月ありて
不月ありて

おねの目
おねの目
おねの目
おねの目



お通と母娘
お通と母娘
お通と母娘
お通と母娘

お通と母娘
お通と母娘
お通と母娘
お通と母娘

010190514280

芳川春鹿間本起泉綴

其名も高橋 東京奇聞七篇 色吉原城系物語 三冊

鳴田一郎梅雨日記 五冊 東京山間 花岡奇録譚 三冊

白草阿繁顛末 三冊 御所櫻梅松録 十冊

坂東彦三倭一流 三冊 昇平 之府膝栗毛 三冊

澤村田之助曙草紙 五冊 新板物不致滑 一冊

幻阿竹尊開書 三冊 櫻田祝町二番地 編輯人 岡本勘造

川上行義復讐奇談 二編 出版人 綱島龜吉

不詳三

ナ

芳川春鹿間の本起泉綴
 其名も高橋 東京奇聞七篇 色吉原城系物語 三冊
 鳴田一郎梅雨日記 五冊 東京山間 花岡奇録譚 三冊
 白草阿繁顛末 三冊 御所櫻梅松録 十冊
 坂東彦三倭一流 三冊 昇平 之府膝栗毛 三冊
 澤村田之助曙草紙 五冊 新板物不致滑 一冊
 幻阿竹尊開書 三冊 櫻田祝町二番地 編輯人 岡本勘造
 川上行義復讐奇談 二編 出版人 綱島龜吉

明治十五年 二月 日 歌川國松画 出版人 綱島龜吉

芳川春鹿間の本起泉綴
 其名も高橋 東京奇聞七篇 色吉原城系物語 三冊
 鳴田一郎梅雨日記 五冊 東京山間 花岡奇録譚 三冊
 白草阿繁顛末 三冊 御所櫻梅松録 十冊
 坂東彦三倭一流 三冊 昇平 之府膝栗毛 三冊
 澤村田之助曙草紙 五冊 新板物不致滑 一冊
 幻阿竹尊開書 三冊 櫻田祝町二番地 編輯人 岡本勘造
 川上行義復讐奇談 二編 出版人 綱島龜吉

